

COVID-19罹患後症状 (long COVID) に向き合う医療者へ

片山皓太

聖マリアンナ医科大学 総合診療内科

聖 マリアンナ医科大学

病院では全国に先駆けて、COVID-19 罹患後症状 (long COVID) の専門外来を開設した。本学はコロナ禍当初から重症例を含む多くの患者を受け入れてきたが、やがて急性期を乗り越えたはずなのに、倦怠感や息切れ、集中力低下などに悩み、「どこに相談してよいかわからない」と戸惑う患者が目立つようになった。

こうした声に背中を押されるように、病院長の号令のもと、2021 年 1 月に多職種・各診療科が連携する専門外来が立ち上がった。身体症状への対応はもちろん、周囲から理解されにくい苦しさにも寄り添いながら最適解を模索する日々は、今も続いている。

long COVID は世界的な課題であり、その原因病態はいまだ十分に解明されておらず、確立した治療法も存在しない。2021 年 12 月には厚生省が『新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 診療の手引き 別冊 罹患後症状のマネジメント』を公表し、以後も改訂が重ねられてきた。しかし、現場で求められる工夫やコツにまで踏み込み、long COVID 診療の全体像をわかりやすく示す実践的な一冊は、これまで存在しなかった。

そこで本特集では、日本各地で long COVID 診療に携わるエキスパートに執筆を依頼し、その実践知を「凝縮された経験」として一冊にまとめた。本特集が long COVID に向き合う読者にとって、静かに寄り添う頼れる相棒のような存在となれば幸いである。



徳増一樹

岡山大学病院 総合内科・総合診療科



世 界中に広がった

COVID-19 は急性期症状の問題が過ぎ去った後でも、後遺症状として医療の世界に爪痕を残している。

これは日本だけでなく世界中で起こっていて、時に「学校に行けない」「仕事ができない」といったように、人々の生活までも強く蝕んでいる。

このような「COVID-19 罹患後症状」(世界的には long COVID と呼ばれるもの) が、2020 年頃から日常診療の現場でみられるようになった。「コロナに罹った後だからで…」。そのような既存の疾患概念に分類できない、治療法が確立していない領域が、総合診療という現場に押し寄せるようになった。

2021 年 2 月に岡山大学病院に COVID-19 罹患後症状を専門に診療する「コロナ・アフターケア外来」が立ち上がった。これまで約 4 年半で、延べ 1,200 人以上を診療してきた。

本特集は、日本の大学病院として初めて COVID-19 罹患後症状の専門外来を開設した聖マリアンナ医科大学で診療に従事してきた片山先生と、2 番目に専門外来を開設した岡山大学で同外来に携わってきた私が企画した。実際の医療現場で「COVID-19 罹患後症状」に真剣に向き合い、診療してきた執筆陣の渾身の内容となった本特集号、ぜひ多くの方にご覧いただきたい。

